



## だんごむしのこと、ご存知ですか？

今、幼稚園では主にうちゅう組の男の子たちが、毎日、虫探しをしています。園舎建築後、雑草のないきれいな庭になりました。いえ、きれいな庭になってしまいました。虫やトカゲの大切な棲みかなくなりました。去年、あまりに殺風景になってしまった庭で年長の男の子たちは、虫もトカゲもない、面白くないと怒っていました。あんなに身近なだんごむしさえ、姿を消してしまったのですから、怒るのも無理はない、と私は内心、同情していました。それから9か月が過ぎて、やっと少しですが虫たちが戻って来てくれました。あり、だんごむし、わらじむし、こがねむしの幼虫、てんとうむし、おおつまぐろよこばい（通称ばななむし・・あいらんでは代々そう呼ばれています）何処にでもいるタフな奴が、まずは帰って来てくれました。

ところで、この何処にでもいる身近な生き物たちのことを、どれくらい知っていますか？

例えば“だんごむし”。私も子どもの頃にはしょっちゅう捕まえていました。たくさん捕まえました。その生態については全く知りませんでした。その名の通り、小さく丸まる事以外には・・・それが、親になり、また幼稚園で子ども達と生活するようになった時、“だんごむし”はもっと知りたい生き物になりました。『**ぼく、だんごむし**』（福音館書店 かがくのとも傑作集）という絵本の中には、丁寧にこの知られざる身近な生き物の生態が書かれています。コンクリートや石も食べていること、脱皮を繰り返して成長していること等々。いろいろな事を知ると、それまでとは違う親近感や愛着が生まれます。なんだかすごい奴だと、ちょっと尊敬なんかもしたりして・・・。ただ、むやみに“だんごむし”を集め、ビニール袋をいっぱいにして満足している子ども達にも、その生き物の生活を紹介することができるようになりました。生活している場所、好きな食べ物などをお知らせします。大抵の返事は「しってる～」。でも、少しずつ彼らと“だんごむし”とのお付き合いの形は変化していきます。捕まえると飼育ケースに入れます。土も入れます。餌になる枯葉や石も入れています。“だんごむし”にとっては所詮、お気の毒な話ですが、子ども達は“だんごむし”も命あるものとしてお付き合いをし始めるのです。最初から、「かわいそうだから、逃がしてあげなさい」では、命の実感がありません。ビニール袋にただ集めた“だんごむし”が、動かなくなってしまうことを知ること大事な経験だと、私は考えています。

虫は苦手、生き物を飼うのはちょっと・・・それも大人の本音でしょう。でも、子ども達と一緒に、身近にある命に興味を持つことはできそうです。子ども達と同じ目線で、同じ時間、その生き物の生活を覗いてみることで充分かもしれません。飼っていたカブトムシが死んで動かなくなった時、「電池を交換して」というのは、笑えない話です。幼い時に、身近な命との出会いをたくさん経験してほしいと思います。